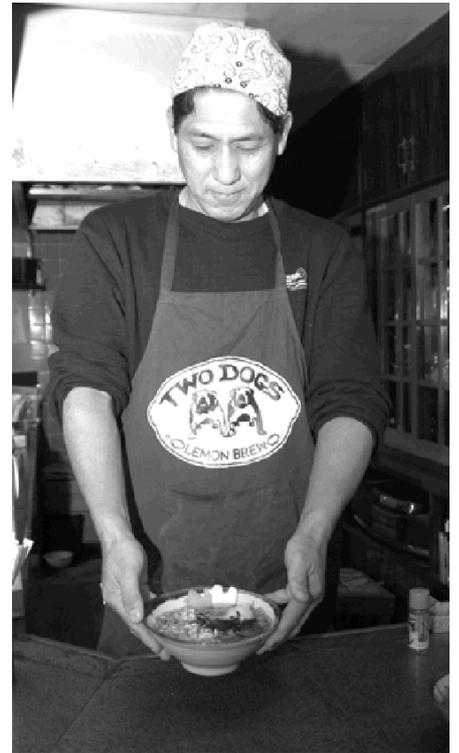


早朝から開店 オシドリで活性化



「気軽に立ち寄って」と西村さん

秋から春先にかけて、まちを流れる日野川には「オシドリ」が多数飛来。その美しい姿を一目見ようと、オシドリ観察小屋には年間1万人以上の人が、県内外から訪れています。オシドリを見るに、早朝から訪れる人が多いことから、オシドリの木工品などを置く土産店や冷えた体を温めてもらおうと、そばを出している店があります。



「冷めた体を温めて」と遠藤さん

土産店の「ウッド工房にしむら」を経営するのは、西村喬宏さん（根雨）、そば店の「そば処おしどり」は、遠藤清さん（根雨）が地元のボラントリーアに依頼して経営しています。

西村さんの店は、木の木目を生かしたオシドリのペンダントやブローチなどの木工品を置き、遠藤さんの店は、オシドリの姿をデザインした「かまぼこ」が特徴のそばを出しています。

西村さんは「オシドリを見るに多くの人が訪れます。出店者が増えれば、この地域もにぎやかになるはず。この観光資源を積極的に活用し、まちが元気になればうれしいです」と話し、遠藤さんとともに早朝からの開店に元気を出しています。

関西地区在住者懇談会「ひの郷会」ふるさと交流会 まちの活性化をめざし、熱心に話し合う

日野町出身者など関西地区在住者で構成している「ひの郷会」（岩本次郎代表世話人）の会員ら17人が、11月29日・30日の2日間、日野町を訪れ、ふるさと交流会がリバーサイドひの（下樓）で開かれました。

地元からは、まちづくり日野、JA鳥取西部日野町支所職員、町関係者など12人が出席し、まちの活性化について熱心に話し合いました。

会では、ひの郷会を代表して岩本さんが「自然豊かなこのまちには、私たちの思いが

いっぱいあります。ふるさとが、すばらしいまちに発展してほしい」とあいさつ。その後、そば関連の商品、農産物加工品等の開発と現状など今後の取り組みについて、それぞれの関係者が説明しました。

ひの郷会の会員からは「都会と地方の考え方に違いがある。そういうことを考えていくのも課題では」「まちには休耕田がたくさん見られる。ブルーベリーなどの苗を植えていけば活性化にもつながるのではないのでしょうか」など活発な意見が出ました。

ひの郷会は、日野町と関西地区に住む日野町出身者などのパイプ役として平成4年に発足しました。大阪府、兵庫県を中心に92人の会員で構成。まちの情報提供、特産品を詰めた「ふるさと便」のあっせん、懇談会などを開いて交流を深めています。

また、平成13年から同会員の仲田和夫さんの呼びかけにより、まちの特産品を大阪で販売する農産物直売市も年1回開かれるようになりました。



「すばらしい町に」積極的な意見が飛び交う